

岐阜大学地域交流協力会

事務局／岐阜大学産官学連携推進本部内

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL.058-293-3187 FAX.058-293-2032 E-mail ccr-jimu@gifu-u.ac.jp

国立大学法人

岐阜大学

1 「岐阜大学産学連携フェア2017」を岐阜大学地域交流協力会が共催

本フェアは昨年に引き続き10月20日(金)、岐阜駅前岐阜大学サテライトキャンパスにて、岐阜大学の研究・技術シーズを紹介し、企業ニーズとのマッチングの機会の提供を通じて、地域産業界への貢献を高めることを目的に、下記の構成で開催されました。

- ①特許(出願)関連技術および学会賞を受賞した4件の研究成果を紹介する「技術シーズ説明会」。
- ②岐阜大学産官学連携推進本部と共同開催の「秋の特別講演会」。
- ③会場を近くのレストランに移して、7件の研究成果と3研究拠点をパネル展示した「産官学交流会」。

開会にあたり、岐阜大学森脇学長の挨拶があり、2025年に向けた「岐阜大学の将来ビジョン」および「産学金官人育成定着化プロジェクト」の説明と、地域産業界からの日頃のサポートに感謝の意を表されました。参加者は産業界の方々を中心に108名でした。



森脇学長の挨拶

2 秋の特別講演会の開催

岐阜大学地域交流協力会は「岐阜大学産学連携フェア2017」の共催機関として、同日「秋の特別講演会」を開催しました。

- 開催にあたり、岐阜大学地域交流協力会岡本会長より以下のような挨拶がありました。
- ・人材育成拠点としての岐阜大学、産学金官人育成定着化プロジェクトにおける岐阜大学工学部の協力による特徴的な活動の紹介。
 - ・協力会について、会員数の増加・コーディネーターによる会員企業訪問・ラボツアー・出前セミナーおよび会員企業との共同研究等の現状の説明。
 - ・岐阜大学の技術シーズをいかに企業経営に取り入れるかは経営者にとって非常に大切なことであり、それをフルにきめ細やかに活用し更なる成長に役立てていただきたい。



岡本会長の挨拶

第1部 「産学連携・共創とベンチャー企業－地方創生を目指して－」

一般社団法人ベンチャーエンタープライズセンター(略称VEC) 業務部長 松井秀樹氏

松井氏は岐阜市出身、2015年8月よりVEC勤務。大学発ベンチャーの現状について詳しく説明していただきました。

【講演概要】

ベンチャー企業とは?明確な定義は無く「一般的には新規性・独創性を持って社会を変えるような急成長する企業」との説明を皮切りに、日本のベンチャーキャピタル(VC)の投資動向について説明があり、次いで、講師がVEC着任後交流された方々 ベンチャー企業(VB)、事業会社、金融機関、VC、アクセラレーター(VBと企業の共創を推進する支援者)、大学の産学連携部門、官公庁等 一から伺った話をもとに、産学連携・共創、大学発VBへの期待、大・中堅企業とVBの協働の現状と課題について述べられました。

また、地方大学の知財活用事例、地域の課題解決に挑むベンチャー関係者の活動、地方における起業家教育の取組等についても具体例を交え、お話ししていただきました。



松井氏の講演

第2部 「社員が辞めない会社づくり・人づくり」

株式会社 NATULUCK / 一般財団法人エメラルド倶楽部 代表取締役/代表理事 菅原智美氏

【講演概要】

御自身の経験を交えながら社員のモチベーションを向上・維持する経営の秘訣について講演をしていただきました。

最初の就職先で突き付けられた現実から、将来自分がなりたい姿は「起業」して経営者になることであると、高いモチベーションを持って数々の起業家の本を読み、成功するには営業力が必須であることを理解し、営業力を養うためにリクルートへ転職。リクルートでの約3年間でトップの営業成績を取め次は「経営」の勉強のため携帯電話ショップ企業へ転職後、10年で代表取締役社長に就任(従業員100人)。

従業員の気持ちもわかる経営者の気持ちもわかる自分が社長に就任した後の改善例として「パワーシートによる目標(職場の掃除、毎日5人からありがとう、遅刻をしない、残業はしない等)設定」し、達成した人には朝礼で「おめでとう」とみんなでお祝い

したことなどを紹介。

会社づくりとして若手社員のやる気を引き出すには、目標を持って仕事ができる組織の構築、能力を正当に評価すること・好きなことができるかが一つのポイントである。若手社員が求めていること、給料とかお金とかの評価は限度があり、それがモチベーションに上がるのはほんの一瞬で、社員にモチベーションを持ってやってもらうというのは、自分が過ごす会社で自分が成長できるかどうか、自分の「自己成長」ができるかどうかということであり、社員のほとんどが望んでいると言っていい。成長している自分を感じることができる、そのために目標設定をしてその達成したことを祝ってあげたり、進捗を管理することが重要である。

次は「存在意義」です。その人がいることによってこの組織の中のこういう役割を果たしている、いい部分を所属長が評価しこの部署でこういう所で生かしてほしいと、その人の存在意義を伝えてあげる。

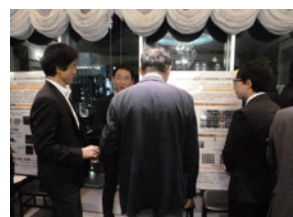
そして「成長期待」ということで、毎日の仕事がルーチン業務であっても、会社は実は3年後5年後は日本一のこんな会社にしていくんだとか、上場するんだとか、世界に展開していくんだという夢・経営理念を伝えることにより、そこに対する今の仕事があるんだということによってモチベーションが上がるので、会社の目指す所を伝えるということは重要なことである。

モチベーションを上げるための目標設定の法則を「うさぎとカメ」の例を挙げ、うさぎの目的はカメに勝つこと、カメの目的は山の頂上に登ること、で大きく違い、世の中うさぎの人が多く、あの人より給料が安いとか、あの人より残業が多いとか、あの会社の方が良さそうだとか何かと比べて自分を評価する人がすごく多いのです。そうではなくて、あなたはカメで山の頂上、その山の頂上が何であるか、1年後こうなっていたい・3年後ここへ行きたいとかなど自分の目指す所を明確しておけば、ウサギがどうであれ周囲がどうであれ関係ない、自分が今できる事を自分のペースで一步一步確実に前に進め達成できるという意識の醸成が大切である。

講演会終了後、会場を近くのレストランに移し、展示された技術シーズを先生方からご参加の皆様にご説明をいただき、展示パネルの前では多数の皆様に興味を持っていただき、参加者と先生との交流が盛んに行われると共に会員相互、会員と先生および大学関係者が懇親する産官学の交流の場を提供しました。



菅原氏の講演



産官学交流会

3 10月13日幹事会を開催

岐阜大学産官学連携推進本部の会議室にて平成29年度第2回幹事会を開催しました。

本年度上半期の活動内容(総会、出前セミナー、技術交流会等)および予算執行状況・今後の活動計画(産学連携フェア、産官学交流会、ラボツアー等)の報告・審議と秋の特別講演会などの説明が行われました。

4 9月25日、12月6日開催のラボツアーに協賛

【9月25日】

- ◆場 所：「岐阜大学応用生物科学部附属動物病院」
- ◆内 容：・動物病院紹介
・企業講演
「マイクロミニピッグ 楽市楽座 戦略」
富士マイクラ株式会社 代表取締役 佐竹典明氏
- ・研究紹介：4件

◆参加者：18人

【12月6日】

- ◆場 所：「岐阜大学インフラミュージアム」
- ◆内 容：インフラミュージアムの見学と、第1回岐阜大学土木展と同時開催
・インフラミュージアムの見学
・第1回岐阜大学土木展
……土木系教員による講演(10テーマ)

◆参加者：98人

ラボツアー後に開催された産官学交流会では企業の参加者と先生方との活発な意見交換あるいは技術相談など、有意義な場を持つことができました。

5 会員企業R&D向上促進事業公募のご案内

H28年度より募集している事業で、H29年度からは「通年募集」になりました。

この事業は、会員企業が抱えている技術課題あるいは新規事業展開推進課題等の解決を目的とした岐阜大学教員との共同研究に対して「25万円/件」を資金援助するものです。

詳細は、岐阜大学地域交流協力会のホームページをご覧ください。

6 平成30年度総会開催案内

【開催日】	平成30年5月29日(火)	【スケジュール】	平成30年度総会	(14:00～14:45)
【場所】	じゅうろくプラザ		記念講演会	(15:00～16:45)
	岐阜市橋本町1丁目10番地11		協力会フォーラム・交流会	(17:00～18:30)

※スケジュールは変更する場合があります。

7 岐阜大学の技術相談窓口について

岐阜大学には最初の相談窓口として「産官学連携推進本部」があります。本部には産学連携コーディネーターが常駐し、企業の皆様からのご相談を常時受け付けています。どのようなご相談・技術課題にも対応いたしますので、気兼ねなく相談・利用していただければ幸いです。

岐阜大学産官学連携推進本部
産学連携ナビ

検索

